

地域連携室便り

愛媛県立中央病院
地域医療連携室

No. 23 (2022年4月)

直通TEL 089-987-6270 (前方連携)
089-947-1165 (後方連携)
FAX 089-987-6271



桜花の候、皆様におかれましてはますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

地域連携室便り No. 23 4月 を刊行いたしました。気軽に読んでいただけるようにと考えておりますが、皆様方からのご意見をいただければ幸いです。聞きたいこと・知りたいこと等、ぜひお知らせください。この機会にぜひメール登録をよろしく願いいたします。

今回の内容

- 1 前方連携からのお知らせ 地域医療連携室
- 2 “Change, or Die.” 副院長ご挨拶 岡山英樹
医局長ご挨拶 椿雅光
- 3 診療科紹介 橋直人
- 4 第112回医療連携懇話会を終えて 井上武
- 5 ソウシンコラム その5 玉木みずね
- 6 地域医療連携室からのお知らせ～メールのご登録のお願い～

①前方連携からのお知らせ

地域医療連携室

「診察予約票」をリニューアルしました！

現在、当院へご紹介いただいた患者様について、予約日時を調整後、「診察予約票」を紹介元医療機関様へFAXにて送付しております。この「診察予約票」は、受診日のご案内だけではなく、受診の際に必要な事項や各診療科からの重要なお知らせも記載させていただいておりますので、必ずご紹介患者様へお渡しいただきますようお願い申し上げます。また、やむを得ずお渡しできなかった場合等については、お手数ですが、記載内容をご確認の上、患者様へお伝えいただけると幸いです。

今後も迅速な予約調整が行えるよう努めて参りますので、引き続き、ご理解ご協力の程よろしく願いいたします。

FAX : 089-987-6271

令和4年3月18日

先生 御仲史

愛媛県立中央病院

診察予約票

		昭和9年4月7日 ID : 0048651
予約日時	令和4年4月19日 (火曜日) 09:00	
診療科	内科診察予約1 担当医師 内科診察予約1	
各診療科からのお知らせ		

【受診当日お持ちいただくもの】

- ①診察予約票 (この用紙)
- ②紹介元医療機関からの紹介状・検査結果・CD-R (画像) 等
- ③愛媛県立中央病院の診察券 (お持ちの場合)
- ④保険前等
- ⑤お薬手帳または現在服用されているお薬の内容がわかるもの

【受診当日について】 受付場所:1階 総合受付 (地域連携受付)

- ・受付が混雑する場合がありますので、予約時間に間に合うようお越しください。
- ・紹介元医療機関からお預かりした紹介状・検査結果・CD-R等を全てご提出ください。
- ・当日の診療・検査の進行状況により、お持ちいただくことがございます。

※予約のキャンセル・変更につきましては、紹介元医療機関へお問い合わせください。

愛媛県立中央病院 地域医療連携室
089-987-6270 (直通)
089-947-1111 (代表) 内線: 2293



② “Change, or Die.”

副院長ご挨拶 副院長 岡山 英樹

この度、副院長を拝命いたしました岡山英樹（おかやまひでき）と申します。私は宇和島市の出身で宇和島東高校（二宮朋之先生と3年間同じクラス）、愛媛大学（1988年卒）、愛媛県立中央病院研修医、愛媛大学大学院（1996年修了）、喜多医師会病院、愛媛大学病院をへて、2010年に愛媛県立中央病院に入職しました。

平成元年には愛媛県立中央病院で初期研修を送りました。当時は「働き方改革」と真反対の生活であり、ほとんど病院で寝泊まりし、ドロドロになりながら密度の濃い研修を送りました。この時の経験は大きなインパクトがあり、「患者さんとご家族をhappyにするためには、常に最新の臨床の知識をupdateし、同時に卓越した技術を身につけなければならない」という思いを強くしました。この時の経験がなければ現在の自分はなく、大変感謝しています。再入職してからは2013年5月に新病院への移転という一大イベントを経験させていただきました。県中の職員一同とてつもない労力を払い、様々な難題に知恵を絞り、救急機能を保ちつつの移転に神経をすり減らしました。移転後数年かかって日々の臨床の中で創意工夫がなされ、様々なワークフローが使いやすい方向へ収束し、有機的に稼働するようになりました。院内では広報委員会、物品管理委員会、固定資産委員会の3つの委員長を拝命しておりますが、とにかく事務方がモチベーション高く、優秀で助けられることが多いです。広報委員会では「愛媛県立中央病院のファンを増やす」ことを主軸に置いて広報誌「小春日和」やホームページのリニューアルを行いました。全国の多数のホームページをみて研究し、トップページの動画は愛媛県立中央病院が多職種のスタッフに支えられていることを強調する内容としました。さらに職種別のリクルーティング動画も埋め込みました。スマホでググってのアクセスが7割の時代、かつコロナ禍でデジタルトランスフォーメーション（Dx）の中、多くのvisitがあり、リクルートに一役買っているのではないかと自負しております。

さらに中止していた市民公開講座のオンデマンド配信の試みを始めました。未曾有のパンデミックにより様々なパラダイムシフトが生じましたが、Dxは半ば強制的で、これからもITによる患者さんへのアナウンス、すべての職種のリクルーティングがますます重要になるでしょう。「働き方改革」等々これからも当院には多くの難題が降りかかってくると思います。しかしながら愛媛県立中央病院は、圧倒的な経験知を持つ様々な職種の方ばかりの大きなポテンシャルを秘めた組織です。“Change, or Die.”（ピーター・ドラッカー）と言われるように、最も柔軟に変化できる組織が生き残ることができる。当院はそれが十分可能だと考えています。

これからもご指導ご鞭撻の程、何卒よろしくお願いいたします。



②医局長ご挨拶

医局長 医療情報部 消化器外科

椿 雅光



皆さま、こんにちは。令和4年4月に医局長を拝命いたしました椿雅光（つばきまさみつ）と申します。私は松山市出身、松山東高等学校を経て昭和57年に愛媛大学医学部に入学、昭和63年に卒業し、同年、愛媛大学医学部外科学第一教室に入局。1年目は愛媛大学で、2年目は県立中央病院で研修いたしました。

平成4年より県立今治病院へ赴任。以後、北宇和、伊予三島、中央、三島、中央（7年間、うち半年間南宇和出張）、今治と異動し、平成26年より中央病院に勤務しております。愛媛県立病院には30年間勤務したことになります。

この度、前任の松岡宏先生が定年退職されましたので、私はその後任として医局長を任されることになりました。

私が主に担当するのは、医療情報部門、総合患者相談窓口、働き方改革推進部門の三つです。

私は令和2年4月から医療情報部門を担当しています。医療情報部は診療情報病歴室、電子カルテ運用管理室、ネットワーク運用管理室から構成され、様々な業務がありますが、最近特に重要なものは情報セキュリティに関する業務です。2021年に徳島の病院がランサムウェアにより攻撃され、電子カルテシステムが使用不要になった事件は、まだ記憶に新しいところです。診療の基盤である電子カルテは、正常に動くのが当然で、障害を起こせば診療に重大な影響を与えます。電子カルテを安定的に運用するため、サイバーセキュリティ対策に取り組むとともに、万一の事故発生時にも対応できるよう訓練等、十分な準備をするつもりです。

次に総合患者相談窓口の業務についてお話しいたします。当院は基本的に地域の医療機関の先生方から紹介された患者さんの診療を行う病院です。しかし、初診患者さんも一定数来院されます。そのようなとき、総合患者相談窓口では行くべき診療科あるいは地域の医療機関を適切にご案内しています。あわせて、上手な医療機関の利用方法なども積極的に提案してまいります。

そして、働き方改革推進に関することです。働き方改革はすべての職種の方々に関係がありますが、その中でも特に医師の働き方改革は速やかに取り組むべき課題です。三次救急を担当する当院も例外ではありません。医師も労働者の側面があり、適切な労働時間と十分な休息が必要です。「睡眠不足の疲れた外科医が手術をする。」ことは医療安全上も問題です。医師の働き方改革には、まず医師の意識改革が必要です。しかし、改革は医師だけでは行うことはできず、看護師さんをはじめすべてのコメディカルや職員の方々、地域の医療機関の先生方、さらに患者さんと家族の方々の協力が必要です。さらにこれは当院のあり方や種々の政策とも関係があります。困難な課題ですが副院長の玉木先生を中心に全力で取り組む所存です。

最後に仕事とは関係ないのですが、私の趣味はアマチュア無線です。私の場合、モースト通信とデジタル通信をしており、マイクを使うことはありません。無線機とパソコンをつないで行うデジタル通信では、比較的簡単な設備で国内だけでなく世界の人々と交信できます。同好の方がいらっしゃいましたら、是非お知らせください。



③診療科紹介

救急科は2003年に前任の濱見先生が立ち上げ、その後業務を徐々に拡大し、現在は馬越救命救急センター長のもと12名のスタッフが病院前医療から初期救命診療、集中治療に携わっています。

①病院前医療

早期医療介入による重症患者の救命率の向上を目指しています。

- ・ドクターヘリ：基地病院として県内の消防機関や医療機関と連携
- ・ドクターカー：夜間や天候不良時にドクターヘリを補完
- ・ワークステーション救急隊と医師同乗出動：松山市消防局と連携

他にも、中予地域メディカルコントロール(MC)協議会のMC担当医療機関として、救急救命士や消防職員に就業前病院実習や生涯教育を提供しています。また、当院は「基幹災害拠点病院」に指定されており、救急科スタッフのほとんどがDMAT (Disaster Medical Assistance Team: 災害派遣医療チーム) 隊員です。東南海・南海地震や原子力災害などに備え災害医療体制の強化にも取り組んでいます。

②初期救命診療

初療室(3次救急外来)は2床+補助ベッド2床の合計4床で運用し、放射線部、臨床工学部、検査部と密に連携しています。救命救急センターとして愛媛県全域から重症救急患者(いわゆる“3次救急患者”)を受け入れ、各専門診療科とともに診療を行っています。そのうち、多発性外傷、敗血症、広範囲熱傷、急性中毒、低酸素脳症、体温異常等は救急科が主治医として入院まで対応します。

③集中治療

外来診療に引き続き、救命センターICU/HCUの運用にも携わっています。医師・看護師以外にも薬剤部、リハビリテーション部、栄養部等の多職種と連携した診療を行い、「食べる」「寝る」「動く」をモットーに重症患者の長期予後の改善に取り組んでいます。

「ドクターヘリ」「救命救急」「集中治療」というワードからは昨今のメディアのイメージも相まって、私たち救急科に対して「いけいけ、どンドン」なイメージをお持ちになる方がいらっしゃるかもしれません。しかし、私たちが目指しているのは「地味」、「地道」、「引き算」の急性期医療です。日常の業務内容は多岐にわたりますが、担っているのは「隙間産業」であると自任しており、これからも救急医療のHUB的な役割でありたいと考えています。

ちなみに、当院救命救急センターは正確には「高度救命救急センター」ですが、この「高度」が付いているのは、厚生労働省から広範囲熱傷、指肢切断、急性薬物中毒等の特殊疾患患者に対する救命医療を行うために必要な相当高度な診療機能を有する、と認定された施設になります。

これが意味するところは、他の救命救急センターよりも「格上である」というわけでは全くもってなく、院内の多職種連携によるシームレスなチーム医療がそれなりにできているということを示しているのだと私たちは考えています。

最後に、当科は当院救命救急センターの窓口としての責務も負っております。当院救命救急センターは、松山医療圏のみならず愛媛県内の重症救急患者の「最後の砦」として1981年に設立され、このたび40周年を迎えました。ひとえに地域の医療関係者の皆様にお力添えいただいたおかげです。今後も、愛媛県下の救急医療体制が円滑に維持できるよう精進していく所存でございます。引き続きご理解、ご協力の程よろしくお願いいたします。



④第112回医療連携懇話会を終えて

放射線科 PETセンター長 井上 武

令和4年3月9日に第112回医療連携懇話会をハイブリッドで開催しました。テーマは『脳神経疾患診療update 2022』で、いずれも神経放射線画像にとっても造詣の深い（愛してやまない）3人の先生に講演していただきました。

『神経放射線画像が教えてくれた神経疾患Update～当院で経験した症例を通じて～』

脳神経内科 医長 渡部 真志先生

①PS (Pia-subarachnoid) pattern : 脳軟膜に主座のある炎症、血管新生を伴わず、造影FLAIR画像が特に有用な症例として、P. acnesによる慢性細菌性髄膜炎、リウマチ性髄膜炎、抗MOG抗体陽性皮質性脳炎の3例

②造影効果を伴うPVS (Perivascular space) 所見は、BBBの破綻を意味し、炎症性病態と関連している中枢神経原発悪性リンパ腫の亜型2例と自己免疫性GFAP astorocytopathyの2症例 これらの細かな所見を丁寧に観察する事で診断の糸口とし、脳生検も加えることにより、これら稀な疾患への正確な診断に至るプロセスの大事さを語っていただきました。

『神経放射線画像を駆使した脳腫瘍手術』 脳卒中センター長 大上 史朗先生

県下の脳腫瘍手術のリーダーである大上センター長は今回、脳実質外腫瘍の術前評価の大切さを語っていただきました。髄膜腫、神経鞘腫の術前にMRIを中心とした神経放射線画像の詳細な検討をする事で、①組織型診断、②腫瘍と周囲組織との位置関係やvascularityなどの術前評価、③手術ナビゲーションへの活用などの術前応用を画像、実際の手術の動画も提示しながら解説していただきました。

神経放射線画像を駆使することによって安全で適切な腫瘍摘出が可能となっている現状を強調されました。

『中枢神経MRI画像診断の進歩』 画像センター長・地域医療連携室長 三木 均先生

2年間、地域医療連携室長を務めた三木センター長もこの3月で退職されます。

1982年に国内に初導入されたMRI。その黎明期からMRA (MR angiography) をはじめ、オピニオンリーダーとして一貫して携わってきた中枢神経MRIに関する研究、撮像法開発秘話など約40年間のMRIに対する飽きぬ思いと数多くの画像を、時系列に沿って熱く語っていただきました。

最後は『神経放射線画像を極めたい』との決意と『出会いと言葉に感謝』と心に残る言葉で講演を締めくくられました。

私たち画像診断医でもなかなか理解の難しい神経放射線画像ですが、今回の講演を聞きさらに日々精進を誓うこととなりました。

⑤「ソウシンコラム その5」

～ Against War ～

総合診療科 副院長 玉木 みずね

今回は一地球人として書かせていただきます。

コロナ禍をしのぐ人類の一大事が、悪夢のように起こってしまいました。

ロシアの、ウクライナ侵攻です。

戦争で何が起きるのか、私たちは毎日目の当たりにしています。強者によってルールは簡単に破られ、病院さえも攻撃され、十分な治療はおろか水や食料の確保さえままならない。命を落とす子供、市民・・・二度の世界大戦を経験したのに、なぜこのような愚かな行為に出たのでしょうか。

こんな小さなコラムですが、きっぱりと表明します。『戦争反対！』と。

そしてこれが掲載される時には、平和が戻っていることを、願ってやみません。

⑥地域医療連携室からのお知らせ

今後各種ご案内やお知らせ（医療連携懇話会案内・地域連携室便りなど）はメール配信を推奨させていただきたいと考えております。他、県立中央病院ホームページのタイムリーな更新情報も順次配信予定です。メールでの配信を希望される医療機関様につきましては、お手数ですが、下記メールアドレスへ医療機関名を記載し、送信をお願いいたします。



<件名> メール登録（医療機関名） <本文> ・ 医療機関住所、電話番号

E-Mail : c-renkei@eph.pref.ehime.jp

メールのご登録で...

医療連携懇話会の
動画配信が
ご覧いただけます！



動画配信
3つの
ポイント！



①
お好きな
時間に



②
繰り返し
再生！



③
3密
回避



お問い合わせ

愛媛県立中央病院 地域医療連携室 <担当>濱田・三好

TEL : 089-947-1111(代) FAX : 089-987-6271 E-mail : c-renkei@eph.pref.ehime.jp

次回第114回医療連携懇話会のお知らせ

令和 4年 5月11日(水) 19:00～20:10

テーマ

日常診療で遭遇する血液疾患
(専門科への紹介とフォローのポイントについて)

<座長> 臨床研修センター長 名和 由一郎

<演者> 血液内科 部長 森 正和

血液内科 主任部長 中瀬 浩一

看護師 奥元 佐織

臨床研修センター長 名和 由一郎

<リンク先> 愛媛県立中央病院
ホームページ

お申込はコチラから [Click!](#)



あさくらネット

地域医療連携ネットワークサービス あさくらネット

詳しくはコチラから [Click!](#)

<リンク先>
愛媛県立中央病院ホームページ



地域連携室便り

次回5月号(No.24)は
5月中旬頃刊行の予定です。
お楽しみに！